

VERA

Tokyo Woman's Christian University



SPECIAL FEATURE

カリキュラムを新しくし、1学部6学科の新体制に
将来の可能性を広げる、分野横断的な学びを強化

カリキュラムを新しくし、1学部6学科の新体制に

将来の可能性を広げる、分野横断的



当時の学長の言葉が
今も自分の中の軸となって、
私を支えています

《工藤さん》

—まず、工藤さんがどのような学生生活を過ごされたのか、教えていただけますか。(橋谷)

工藤 悩みまくった学生時代でした。大学の正門を入ると「QUAECUNQUE SUNT VERA (すべて真実なこと)」と本館の壁に刻まれているのが目に入りますが、この真実という言葉が、自分に向けて問われているように感じていました。自分が何のためにこの社会に生まれたのか、自分の使命は何なのか、これまで教育を施してもらい社会に支えられてきた中で、今後どう社会に貢献できるのか。自分が何者なのかということについてとても悩み、悩みすぎて自分の軸が分からなくなり、友達ともあまり遊ばず、図書館にこもって一人で考えるような学生時代を過ごしました。その中で一番記憶に残っているのが、当時学長を務めていらした湊晶子先生との会話です。当時の私は、前を向いてしなやかに生きている方にすがりたかったので、学長室に押しかけ、人間とは何か、人生とは何か、そんなことを問いました。湊先生は、「全てが相働きて益となる」ということを何度も伝えてくださいました。たとえ、自分にどんな役割をあてがわれたとしても、その意味を見いだすのは自分なんだということを教わったように思います。ですからこの言葉は、今も自分の中の軸になっています。

現代教養学部学科新設記念講演

自分を信じて

新たなステージへ

— 問い続けることの大切さ

東京女子大学での学びについて、卒業生であり、現在株式会社スーパーストックトーキョーの取締役社長を務める工藤萌さんをお招きし、森本学長と対談いただきました。ファシリテーターは、同じく卒業生のフリーアナウンサー・橋谷能理子さんに務めていただきました。

*2025年3月20日に行われた対談講演から抜粋し、再編したものです(本文中敬称略)。

本講演会の様子は
こちらからご視聴ください。



講演者

株式会社スーパーストックトーキョー 取締役社長

工藤 萌 KUDO Moe

東京女子大学文理学部英米文学科卒。(株)資生堂へ入社。営業経験後、一貫してマーケティングに従事。第一子出産を機に2019年、(株)ユークレナへ転籍し、マーケティング部門の立ち上げや事業本部長、執行役員を歴任。2023年3月より(株)スーパーストックトーキョー顧問、2023年8月には取締役役に就任。価値づくりユニット長も兼務し、ブランド戦略を軸に経営執行を推し進める。2024年4月より現職。



講演者

東京女子大学 学長

森本 あんり MORIMOTO Anri

国際基督教大学教養学部人文科学科卒。東京神学大学大学院、プリンストン神学大学院組織神学博士課程修了(Ph.D.)。専門は、アメリカ思想史、哲学・倫理学、宗教学。1991年、国際基督教大学に着任。2022年4月、同大学名誉教授。近著に『反知性主義』『不寛容論』(新潮選書)『異端の時代』(岩波新書)『教養を深める』(PHP新書)『魂の教育』(岩波書店、新刊)など。2022年4月より現職。



な学びを強化

2024年度に全学共通カリキュラムを改編。

2025年度は学科再編により6学科構成の新体制となります。

社会や時代の要請に応える教育プログラムにより
リベラルアーツ教育のさらなる高みを目指します。

森本 大学で4年間勉強したことが自分の仕事に直結しているということは少ないですね。では大学で何をするのかというと、今、工藤さんがおっしゃったような自分の中にある問いを磨くこと、突き詰めることだと思います。勉強というのは一つの手段でしかありません。大学での時間は、さまざまな手段を使って、自分の人間としての器を少しずつ広げる、そんな時間だと考えた方がいいのではないかと思います。

——若いうちに、一見関係なさそうな回り道や無駄な時間を経験しておく、将来自分の血となり肉となる気がしますね。今、学生たちは就職に向かって最短距離ばかりを探しているような気がしているのですが、そうした学生たちに対して良いヒントを与えてくれたような気がします。(橋谷)

工藤 自分にしか考えられないような発意みたいなもの、誰の考えにも似ていない自分だけの思いみたいなものを見いだすことができた4年間だったと思います。

Big question に向き合いながら

勉強を続けることで、

自分の器を広げていく——そのための
成長の時間が、大学時代の4年間

《森本学長》

——リベラルアーツで学びの礎を築くことに、どのような意味があると思われますか。(橋谷)

森本 私は高校生の知識で、大学で何を勉強するかを決めるの

は難しいと思っています。大学に入り、学びについて知ってから進む道を選んだらいい。勉強は、大学4年間だけでなく生涯続くものです。大学生のうちに「面白くて知りたくてもっともっと勉強したい」という何かを見つければ、それが Habit (習慣) になって、その後はもう自動運転のように、学ぶことを続けられるのではないのでしょうか。

工藤 私は「どのような社会にしたいのか」ということに重きを置き、ビジネスはそれを実現するためのツールとして捉えています。卒業後に就職した資生堂では、女性をエンパワーメントすることを目的に仕事をしていました。次に転職したユグレナというベンチャー企業では、社会課題をビジネスの力で解決することをミッションとしているところに共感していました。そして商品が売れば売れるほど社会が良くなるビジネスをどうやったら作れるかという課題を掲げる中で、スーパーストックトキーオーに出逢いました。このような考えに至った理由の一つには、大学生活で「真実とは」「自分が信じられることは何か」という問いをずっと考え続けたからだと思います。

——これからの東京女子大学に、どのようなことを期待しますか?(橋谷)

工藤 悩むことを許してくれた環境、時間、そして問いを立てるヒントをくださった先生方、これら全てがそろっていたことはとても先進的だったと、今さらながら思います。企業戦士を育てるような大学であれば、そんな無駄なことをせず、直截的に技術を学ぶ、知識をインプットすることに重きを置くと思います。それを強要せず、ある意味余白を持って考える時間をくださった、そういう大学は、今の時代だからこそ必要な気がしています。その環境を学生たちに与え続けてくださることを、応援したいと思います。

森本 本学はリベラルアーツを掲げてきました。その中身の一つは Big question にいつも直面しているということです。工藤さんのように大きな問いをいつも頭の片隅に置きながら自分の勉強を続ける、自分が問われた時には、どう意味を持っているか説明できる力を養うことがリベラルアーツの学びだと思います。そして、自分という容れ物を少し大きくしておけば、卒業してからもたくさんのことを吸収できるようになります。そのための成長の時間が、この4年間ではないのでしょうか。東京女子大学の使命は何だと問われれば、そういう4年間を提供する大学であり続けたい、そう答えたいと思います。🌸

ファシリテーター

フリーアナウンサー・東京女子大学非常勤講師・
BOOK CAFE + BAR COTOCOTO オナー

橋谷 能理子 HASHITANI Noriko

東京女子大学文理学部英米文学科卒。(株)テレビ静岡にアナウンサーとして入社。退社後、テレビ朝日「ニュースステーション」スタート時からキャスターとして参加。TBS「サンデーモーニング」に約30年間出演。現在は、母校である東京女子大学で非常勤講師として、メディアやコミュニケーションに関する授業を担当している。2023年11月には、東京・荻窪に BOOK CAFE + BAR COTOCOTO をオープン。様々な文化の発信活動にも取り組んでいる。



2025年度から1学部6学科体制に

学科再編と共に、人文学科を除く5学科では入試選抜が学科単位での実施となり、大学での学びをスタートした後も学科の内包する学問分野の中から専門分野を検討できるようになりました。高校生のうちから学問分野を想定しやすい人文学科では、これまで通り専攻単位での入試選抜を継続しますが、いずれの学科でも学科内外での横断的学びを重視します。入学後の学びや興味関心の変化を反映し、約2年間をかけて専門分野を決定することが可能となったことで、学生一人ひとりが卒業研究に向かって、より主体的に学びを展開させていくことが期待されます。

同時に、他学科履修の必修化や、「知のかけはし科目」、9専攻に拡充された副専攻制度といった分野横断的学びを後押しする仕組みも充実させました。専門性と教養の両方を備え、本質を捉える力、自ら立てた「問い」に向き合い考え抜く力を養います。

学科	学びの柱(主な学問領域)
人文学科	
●哲学専攻	哲学、倫理学、美学、キリスト教学
●日本文学文化専攻 名称変更	日本語学、日本古典文学と文化、日本近現代文学と文化、比較文化
●英語圏文化専攻 新設	英語圏文学文化、英語学、英語教育学
●歴史文化専攻	日本の歴史と文化、アジアの歴史と文化、西洋の歴史と文化
国際社会学科 再編	
国際関係コース	国際政治と各国の外交、国際法、国際協力
地域文化コース	文化人類学、多文化理解、ジェンダーと人権
経済経営学科 新設	
経済学コース	ミクロ及びマクロ経済学、公共経済学、統計学、経済社会と女性
経営学コース	公共政策、マネジメント、マーケティング、資源管理、会計・財政
地域デザインコース	まちづくり、環境、観光、ジェンダーとコミュニティ、持続可能な社会づくり
心理学科 新設	
心理科学コース	認知心理学、社会心理学
発達臨床コース	発達心理学、臨床心理学
社会コミュニケーション学科 新設	
社会学コース	社会学、社会調査、行動科学、価値意識、ウェルビーイング、分断・差別
メディア情報コース	メディア、ジャーナリズム、情報デザイン、SNS研究、ユーザ行動
共生社会コース	多様性理解、共生社会と人間行動、少子高齢社会、ダイバーシティ
情報数理学科 名称変更	
●情報数理学専攻	情報科学、AI・データサイエンス、数理学

専門分野の異なる2人の教員と一つのテーマを議論する「対話」型授業——「知のかけはし科目」

学問領域の異なる2名の教員が一つの科目を担当し「対話」を通して共通テーマについて授業する「知のかけはし科目」。正解のないビッグクエストをテーマに「人文社会横断型」26科目、「自然科学包含型」9科目の全35科目を、現代教養学部の専任教員総勢70名が担当します。ある特定の学問分野の基礎的な知識を学ぶことを目的にせず、問い自体を「どのように考えるか」を重視します。

授業は、担当教員同士の対話だけでなく、教員と学生間との対話、学生同士のグループワークによる議論など、さまざまな形での「対話」を交えたアクティブ・ラーニング形式で進行。自分の常識や、専門が異なる他者と対話しながら、相互理解を深める能力を養います。

【科目の組み合わせ例】

- ◎コミュニケーション×バンダ外交
- ◎社会心理学×経営学
- ◎離散数学×日本文化
- ◎日本語学×発達心理学
- ◎歴史学×国際法学
- ◎計算化学・量子化学×国際関係学



全35科目の
キーワードと担当者の
専門分野はこちら

【授業科目】

人文社会横断型 26科目(選択必修*1)

自然科学包含型 9科目(選択必修*2)

※選択必修*1から2科目、選択必修*2から1科目を含む4科目必修
※必修のうち1科目は3年次以上で履修

「私らしい学び方」をデザインする——他学科科目履修の必修化・副専攻制度拡充

全ての学生が履修する全学共通カリキュラムと所属学科の専門科目を軸に、複数の視点を併せ持ち課題に向き合う力を育てるため他学科科目10単位の履修を必修化しています。

【卒業に必要な単位数】

所属学科の 専門科目 60 単位*	+	全学共通 カリキュラム 30 単位	+	他学科の 科目 10 単位	+	自由選択 科目 24 単位*	=	合計 124 単位
----------------------------	---	----------------------------	---	------------------------	---	-------------------------	---	-----------------

*情報数理学科は68単位 **情報数理学科は16単位

建学の精神に関わる「キリスト教学」、2つの研究所に根ざす「女性学・ジェンダー」「比較文化」副専攻に加え、6学科の学問分野に紐づいた6つの副専攻が新設されました。

キリスト教学	女性学・ジェンダー	比較文化
人間文化学	国際理解	ビジネス・地域マネジメント
心理学	社会構想	情報数理学

企業と連携した実践型の学び

業界の第一線で活躍する企業人と、キャンパス内外をフィールドに実践的な学びを展開。(株)NTTデータグループ、(株)電通、(株)三井住友フィナンシャルグループ、(株)ジェイアール東日本都市開発といった有名企業と連携の下で授業科目を設け、社会で活用可能な課題解決力や実践力を育みます。企業の抱える課題に取り組むマーケティングプロジェクトや、まちづくりアイデアの提案など、学内外を学びのフィールドにする科目を多数用意しています。



高架下の広場空間を活用し、学生のアイデアでフリーマーケットなどを実施した「西荻高架下 OPEN LABO」(東京女子大学×株式会社ジェイアール東日本都市開発 産学連携プログラム)

大学の垣根を超えた学び

東京外国語大学、神戸女学院大学、武蔵野地域5大学との単位互換に加え、国際基督教大学と新たに教育の充実に寄与することを目的とした包括協定を締結。2025年度後期からは単位互換も予定しています。2024年度からは早稲田大学データ科学教育プログラムの提供を受け、AI・データサイエンス科目として「早稲田大学連携科目」をスタート。学修内容に応じて「早稲田大学データ科学オープン認定」により、認定証の発行が受けられます。



岩切正一郎国際基督教大学学長と森本あんり東京女子大学学長

現代教養学部長からのメッセージ



現代教養学部
学部長

山本 真吾 YAMAMOTO Shingo

先ず隗かいより始めよ

知のかけはし科目そして1学部6学科新体制

「先ず隗かいより始めよ」(先從隗始)。『戦国策』などの中国古典に由来するこの故事成語は、〈事を始めるには、自分からやりださなければならない。人に言いつける前に自分が積極的に着手せよ〉(三省堂 WORD-WISE WEB より) という意味で使われることが多いようです。

東京女子大学の教学改革の原動力は、この、まずは言い出した者自らが着手し、実行するところにあります。私たちは、決して他人任せにせず、「我が事」の課題として誠実に受け止め、責任をもって改革を実践してゆきます。

昨年度、リベラルアーツ教育のさらなる進化を目指し、全学共通カリキュラムを大きく変更して新規に「知のかけはし科目」を立ち上げました。専任の全教員が他流試合、すなわち、異なった専門をもった教員2名で新たな知の化学変化を起こす試みに着手しました。心理学と哲学、数学と日本古典文学など、今まで話もしたことのなかった教員同士が、新しい問いを構え、互いの知識と考え方をぶつけ合って悩みながらも楽しく、学生の皆さんとともに一つの授業を構築してゆきます。

さらに、今年度から第二の改革を行い、学科を再編成しました。大学も既存の体制に安住していることはできません。将来を見通して新時代の潮流を的確に捉え、どのような局面でも主体的に考え、実行に移せる、そういった柔軟な学びの場を提供するために、まず自分たちから変わることを選択しました。

「先ず隗かいより始めよ。」これが、東京女子大学の学びのしなやかさであり、強みの原点です。✿

TWCU OG TALK

◆ 卒業生インタビュー ◆ Vol.16

卒業後も学び続け、仕事をする上で必要な知識を身に付けると同時に、ライフステージの変化で得た新たな視点を生かして自分の力に変えていく、そんな卒業生からのメッセージをお届けします。

挑戦の一步が未来を切り拓く —営業職に生きる 東京女子大学で得たもの

現在、株式会社ポーラにて店舗の課題解決を支援するコンサルティング営業に従事しています。売上向上の提案から新製品導入のサポート、人員確保まで、店舗運営に関わるさまざまな課題に寄り添う業務です。最近では新人教育も担当しています。

この仕事に興味をもったきっかけは、ダイレクトセリングという独自の販売スタイルを現場で体感したいという思いからです。実際にお客様と向き合いながら、店舗の方と一緒に成果を生み出していくことに大きな喜びを感じており、SNSでサービスが好意的に取り上げられたときや、担当店舗の売上が向上したときには、自分たちの努力が目に見える形で実を結んだことを実感しています。現在は都心に位置するお店を多く担当させていただいていますが、求められる品質も最高レベルである都心において、これだけのお客様にご満足いただくためのビジネスをしていくことにプレッシャーがありつつもやりがいを感じます。

在学中はコロナ禍という未曾有の事態に直面し、当初予定していた留学がかなわず、大きな喪失感とともに学生生活を見つめ直すことになりました。その中で「自分にできることを全力でやろう」と授業をできる限り多く履修したり、イギリスのイートン校とのオンライン留学に挑戦したりしました。その場の空気感やジェスチャーの伝わりにくい環境下で、自身の語学力や思考力と向き合い、英語力の著しい向上と世界に通ずる論理や数字・データの知見を得たことは貴重な経験でした。

株式会社ポーラ
TB営業部 首都中央ユニット

秋田 陽香さん

AKITA Haruka

2022年度現代教養学部国際英語学科国際英語専攻卒。通訳ゼミ。現在は株式会社ポーラにて、都市部を中心とした取引店舗に対するコンサルティング営業として、店舗の売上向上や人員確保、新製品導入支援など多岐にわたる業務を担当。

東京女子大学で得た「何かを簡単に決めつけない」という考え方は、現在の仕事でも大きな助けとなっっています。営業職として、それぞれの立場に偏ることなく物ごとの全体像をなるべく正しく捉え、最適な打ち手を講ずることができるよう精進しています。また、SS精神※とは、「自分自身を含めた誰かのために一生懸命になれること」だと私は考えています。誰かのために自分の持っているものを結集し、全力で応援し力になる。上下や肩書に関係なく、自分の力を惜しみなく注ぎ、信頼しあえる関係性を築くことが東女らしさかなと思います。

将来的には、個々の業務にとどまらず、事業部や会社全体として「何を指すか」という視点で仕事ができるよう、仕事の枠にとらわれず日々の経験を大切に積み重ねていきたいと考えています。東女で学ぶ皆さんも、まずは東女での生活をとにかく楽しんでいただきたいです。何かに打ち込むことも、ひたすら毎日の流れに身を任せてみることも今後の宝物になると思います。✿

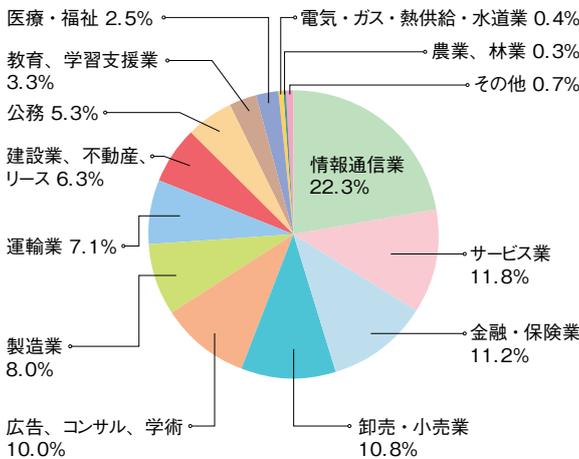
※「Service and Sacrifice (犠牲と奉仕)」の略。キリスト教の精神を表す言葉で、東京女子大学が考えるリーダーシップを示したものの。



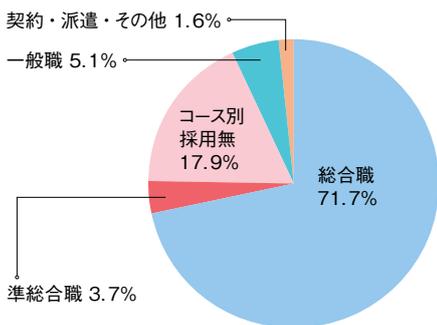
2024年度就職決定状況

2025年3月卒業者の就職率は99.6%(前年:99.4%)となり、例年同様高い就職率を維持することができました。情報通信業・サービス業が上位という状況は変わりませんが、以前は多かった金融・保険業が減少傾向にあります。代わりに卸売・小売業や広告・コンサルティング・学術研究機関などの専門性の高い事業を展開する業界への就職者が増加傾向です。全体としては、特定の業界に偏ることなく、さまざまな業界に就職しています。また、総合職の割合は昨年度からさらに増加し、71.7%(前年:67.5%)となりました。多くの学生が意欲を高く持ち、キャリアを自ら切り拓いているからこそこの結果だと考えます。学生たちを支えてくださったご家族に感謝いたします。

産業別決定状況



コース別決定状況



「Career Talk」に生成AIを活用した機能を搭載

本学独自の就活支援システム「Career Talk」に、近年注目を集める生成AIを活用した新たな機能を搭載しました。具体的には、24時間利用可能なチャットボットや豊富な就活対策動画に加え、新たに【AIアドバイザー】【ESブラッシュアップ機能】【AIによる面接体験】が搭載されました。【AIアドバイザー】では、従来の選択肢を選ぶ方式とは異なり、文章で自由に質問を入力できるようになりました。そのため、これまで対応が難しかった就職関連の質問にも、より柔軟な回答をすることができます。また、AIが事実と異なる情報を生成してしまう「ハルシネーション」の発生を抑えるため、運営側が作成したデータをモデルに反映。信頼できる情報に基づく回答を出力し、高い精度でのアドバイス提供が可能となりました。【ESブラッシュアップ機能】では、エントリーシート(ES)で頻出の設問に対し、就活支援用に調整されたAIが分析を行い、具体的な改善点や魅力的な表現方法を提案します。さらに、【AIによる面接体験】では、音声入力に対応しており、大手企業で導入が進むAI面接の雰囲気を経験できます。終了後には、AIからのフィードバックを得られます。このように、キャリア・センターでは、時代の潮流に合わせた就職支援を展開しています。

オンラインブースの設置

教育後援会のご支援をいただき、キャリア・センター内に個室型ワークブース「テレキューブ」を2台設置いたしました。大学内でオンラインでの会社説明会、採用面接を集中できる環境で受けたいとの学生の声に応えたもので、設置後には高い利用率と満足度を誇っています。



教育後援会の皆さまからの温かいご支援に、改めて心より感謝申し上げます。

はばたけ東女生!

自ら「問い」を立て、学びを深め、
学ぶことを楽しむ学生の姿を紹介します。

情報理学専攻 劉雪峰教授の3年次ゼミ生(当時)が、国際交流プロジェクト『さくらサイエンスプログラム』に参加しました。
交流の様子や取り組みについて語っていただきました。

数理科学科 情報理学専攻 4年

青江 あかり AOE Akari

内藤 凜々子 NAITO Ririko

2025年2月9日(日)より劉雪峰教授(数理科学科 情報理学専攻)の3年次ゼミ(当時)のメンバーは国際交流プロジェクト『さくらサイエンスプログラム』に参加しました。今回のプログラムは数学の未解決問題に対する計算機援用証明法の探究を目的としています。中国台湾からの8名の学生に加え、菊地文雄先生(東京大学名誉教授)、中尾充宏先生(九州大学名誉教授、日本応用数学会フェロー、文部科学大臣表彰科学技術賞受賞者)および特別研究員の遠藤凌輝先生にも講演や交流会などに参加いただきました。最新の研究を学ぶことに加え、情報交換や企業訪問、日本文化体験を行い、研究交流の新たな展開が期待される内容となりました。

初日は空港まで来日学生を迎えに行きました。初対面ということもあり少し緊張しましたが、笑顔で挨拶を交わした瞬間不安はすぐに和らぎました。

その後のプログラムでは日本語勉強会が実施され、簡単な挨拶や日常会話を一緒に学びました。授業の終わりにはそれぞれが好きな漫画の話をして互いの理解を深めることができました。

研究内容発表会では私たちのゼミで取り組んでいる「キャンパスの3Dマップ作成プロジェクト」について発表し、実際に作成中のモデルに触れてもらいました。また、来日学生と本学の4年生及び院生の研究発表も非常に興味深く、学びの多い時間となりました。

国際交流と学びの架け橋—さくらサイエンスプログラム

学部長(当時)の小田先生にも出席いただいた夕食交流会では、食事を通じて参加者同士の距離がぐっと縮まり、お互いの学校生活について発表し合うなどそれぞれの国や学校の理解が深まりました。

企業見学ではナブソン株式会社とGoogle日本支社(グーグル合同会社)を訪問しました。実際の職場の雰囲気を感じることができ、非常に貴重な体験となりました。また、千葉工業大学では関根晃太先生による「精度保証付き計算入門」と題した講演を聴き、大変勉強になりました。

この1週間を通して、海外の学生たちと互いの趣味や日常生活について話す中で次第に仲を深めていきました。初日はまだ少しよそよそしかった関係も最終日にはすっかり打ち解け、連絡先を交換するほど親しくなりました。今でも連絡を取り合っており、こうしたつながりを持てたことは大きな財産です。また、研究発表や講義を通じて最先端の計算技術や証明手法に触れることができ、研究に対する視野も大きく広がりました。学術的な探究と文化的な交流が一体となったこのプログラムは、今後の研究活動にも大きな刺激を与えてくれる非常に有意義な経験となりました。✿



夕食交流会での
集合写真



【今号のテーマ】

私のおすすめ授業

2025年度も新学期を迎え、学生は日々新たな学びに出会い、授業に取り組んでいます。中でも刺激を受けたり、自身の関心を深めたりすることができたおすすめ授業について、学生記者が語ってくれました。

※開講授業および授業内容は年度・学期によって異なります。

2024年度から新たに始まった**知のかけはし科目**がおすすめです！知のかけはし科目は専門分野の異なる2人の教員と一つのテーマを議論する「対話」型の授業です。私は「**人文社会横断型B**」(テーマ：子どものことば)を履修して、子どもがどのように言葉を理解し習得していくかを学んだり、オノマトペや感情語、日本語が持つ奥深さについて発見したりしました。「ことば」という切り口から子どもの興味の在り方や絵本の影響などについて考え、「発達心理」の視点から子どもの認知や言語習得の過程を学び、「子どもには世界がどのように見えているのか？」という問いに触れました。グループワークで私たちが普段使う言葉と子どもが使う言葉とを比較することで、より理解も深まりました。この授業は子どもに関心のある人や、弟妹の面倒を見たことのある人にも特におすすめです！

複数の視点から一つのテーマを深く掘り下げ、グループワークで互いに意見を出し合いながら新たな知見を得られることが知のかけはし科目の魅力だと思います。

(国際社会学科 社会学専攻 2年 志村 奏)

私のおすすめする授業は、女性の生きる力科目の「**女性のための金融リテラシー入門**※」です。SMBCグループによる寄附講座で、現役社員の方々が講師を務められています。当初は受講を悩むほど「金融」という言葉に苦手意識を持っていましたが、さまざまな講師の方からお金に関する知識や各社の取り組みを学ぶことで、自分の将来に対する視野が広がりました。また、大学生になり自分でクレジットカードを利用するようになったからこそ、共感する内容や理解できる点も多くありました。数学の得意・不得意、学年、学科(専攻)を問わず楽しく学ぶことができるのでおすすめです。

(心理・コミュニケーション学科 コミュニケーション専攻 2年 後藤 美那)

※「女性のための金融リテラシー入門」は、SMBCコンシューマーファイナンス株式会社からのご寄附により開講されている授業科目です。

私は文系ですが「**情報処理技法 (Webでの情報表現)**」をおすすめします。オリジナルのWebサイトを実際に制作することができる授業です。さまざまなWebサイトを比べて観察し、グループで意見交換などもするため、Webサイトにおける仕組みの奥深さやデザインについて考えるきっかけとなります。個別でサポートもして下さるので、初心者でも自分でWebサイトをデザインしてみたいという方はぜひ履修してみてください。

(人文学科 日本文学専攻 3年 江森 千聡)



実際に作成した Webページのサンプル



● 第 15 回 ●

家族という現場から

心理学科 花田ゼミ

臨床心理学が専門です。臨床から研究のアイデアを得て、研究で臨床のクオリティを高め、アップグレードされた臨床から新たな研究のデザインがいっそう与えられ、さらに研究で臨床のバージョンアップをもっと目指していく。臨床的関心と研究的動機がおのずと結びつく相互作用に根ざしながら、特に、家族心理学や家族療法の立場から臨床と研究を行い、公認心理師や臨床心理士といった心理の専門職のたまごたちを育てています。

臨床では、さまざまな困りごとを抱えたいいような家族に出会います。事情はそれぞれですが、どの家族にも共通するのは、今は泣いているけれど、また一緒に笑いたいと思っているということ。家族に泣き、家族に笑う。私たちの日常にも少なからずそのような家族体験があるでしょう。ゼミでは、学生がこれまで経験的に抱いてきた関心や動機からテーマを設定し、研究を通じて家族と出会い直すことにより、日常ひいては臨床の実践を更新しています。

家族理解や家族支援において欠かせないのが、家族を部分の総和以上のシステムにつなぎまとめている

コミュニケーションという視座です。治療プロセス一般を検証するため、日本語臨床心理面接コーパスおよび多言語臨床心理面接コーパスを構築し、治療言語の効果的な運用の実際を明らかにしています。症例検討として、『死の棘』等の作品で知られる島尾敏雄とその妻や子どもたちの会話資料を分析し、家族葛藤の機構と過程を確かめています。

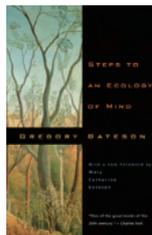
近年、世界では若い世代、特に女性のメンタルヘルスの深刻な悪化という危機が続いています。世界も家族同様コミュニケーションでつながるシステムとみて、若年女性の視点からメンタルヘルスの促進を実現する学習プラットフォームプロジェクトをソーシャルメディアですすめています(下図)。プロジェクトには、本学学生をはじめ海外学生他も参加し、臨床心理学のみならず社会学や医学等の専門家と共に、絶望ではなく希望の拡散に取り組んでいます。✿



フォロー & いいね
ありがとう
ございます♡

入門コンテンツ

Bateson, G. (2000).
Steps to an Ecology of Mind:
Collected Essays in Anthropology,
Psychiatry, Evolution,
and Epistemology
(University Of Chicago Press.)



Batesonらが家族心理学や家族療法にもたらしたシステムやコミュニケーションというものの見方や考え方は、領域を超えたライフハックでもあります。

問題の原因追求よりも解決構築。問題は必ず起こるが、解決もきっと起きている。問題を誰かや何かのせいにするのはいったんやめて、うまくいった、なとなかった、気にならなくなった、そんなエピソードを集め、伝え、広めています。

花田 里欧子 HANADA Ryoko

心理学科 教授

東京女子大学文理学部心理学科卒業、東北大学大学院教育学研究科博士課程修了。博士(教育学)。公認心理師、臨床心理士。日本学術振興会特別研究員(DC2)、京都教育大学准教授等を経て現職。

第6回 タイ・ワークキャンプ報告

2025年2月13日(木)から22日(土)まで、タイ北部チェンライ郊外にある山岳少数民族の児童養護施設「メーコックファーム」でのボランティアを通して建学の精神である「Service and Sacrifice」を学ぶ、第6回タイ・ワークキャンプが開催されました。参加学生に体験の様子を語ってもらいました。

国際社会学科 社会学専攻 2年

櫻井 みなみ SAKURAI Minami

タイ・ワークキャンプで過ごした10日間は、私にとってかけがえない時間となりました。

子どもたちとの交流はとても心温まる時間であり、一番の思い出です。交流の中で何よりもうれしかったことは、子どもたちが「みなみ」と私の名前をたくさん呼んでくれたことです。名前を教え合い、互いに名前を呼び合ったことで、子どもたちとの距離がぐっと縮まったように感じました。手をつなぐこと、ハグをすること、一緒にお絵描きをすること、その一つひとつの中で子どもたちがたくさん愛を伝えてくれたことを感じ、とても幸せな気持ちになりました。毎日交流する中、子どもたちは隣にいる私たちに自分たちのお菓子やアニメのカードなど、自分のものを分け与えられる場面が多くありました。子どもたちが持つ、隣人に分け与える「捧げあう精神」に感動しました。帰国の前日、ある男の子がモールで作った花をプレゼントしてくれました。彼がプレゼントしてくれた枯れることのない小さな花は、大切な思い出としてこれからもずっと私の心の中に咲き続けることでしょう。

ボランティアワークで一番印象に残っている作業は土のう運びです。約20キロはあるような土のうをリレーのようにして川岸まで運び、堤防を築き上げる作業はとても大変でした。慣れない環境の下、目の前の作業に必死であるにもかかわらず誰もが手を差

し伸べてくれたことに感謝の気持ちを抱きました。今回のボランティアワークでは人の優しさ、温かさに触れる機会となりました。

滞在したメーコックファームは自然が豊かで、出会う人全員が温かく、素晴らしい場所でした。日中は美しい小鳥のさえずりが響き渡り、夜は満天の星空が広がります。しかし、自然の美しさとは裏腹にメーコックファームの地には壮絶な歴史があり、今も多くの困難を抱えています。今回の現地での学びを、メーコックファームをまだ知らない人々に伝えていかなければならないと強く感じました。今回いただいたご縁を大切に、もう一度メーコックファームを訪れることができることを願っています。

そして、今回のタイ・ワークキャンプにおいて私たち学生のために関わり、協力してくださった全ての方々に感謝の気持ちを抱いています。今回の学びを今後の学生生活の多くの場で生かしていきたいです。✿



セメントを流し込みながらレンガを積み上げて、新しい建物の土台を作りました



川の氾濫を防ぐために重たい土のうを運び川岸に積みました



日本語教室を開きました



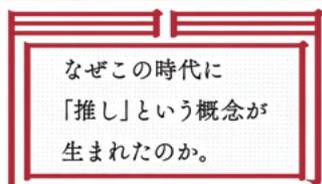
チャペルで子どもたちと日曜礼拝を守った後の記念撮影

TOPICS

問いプロジェクト動画を制作しました

問いプロジェクトの一環で制作した動画の第二弾「社会コミュニケーション学科からの問い」を公開しました。今回のテーマは「推し」です。エンターテインメントやスポーツ、デジタルコミュニティを中心として世界中に広がり、経済にも大きな影響力を及ぼす「推し」という概念はどのようにして生まれたのでしょうか。赤堀三郎教授、唐澤真弓

教授と在学生2名で、自分の「推し活」の経験や、社会学、心理学といった学問的な観点から考えていただきました。本プロジェクトでは引き続き、経済経営学科から「もし幸せが測れるとしたら、どのように測りますか?」、情報数理工学科から「未来はどこまで予測できるのでしょうか?」の動画公開を予定しています。



社会コミュニケーション学科からの問い



左から唐澤教授、
在学生(中央2名)、
赤堀教授



『「学びを学ぶ」Learning to Learn ガイダンス』開催

2025年4月9日(水)および4月15日(火)、同月新たにオープンしたLARECE Learning Commons (LLC)^{※1}にて『「学びを学ぶ」Learning to Learn ガイダンス』を開催しました。LARECE(英語センター)の取り組みである「CLILプロジェクト^{※2}」や「英語なんでも相談」の活用方法や留学準備に関することなど、参加した学生からはさまざまな質問が積極的に挙がり、学期初めの活気あるイベントとなりました。中でも「英語なんでも相談」に

おいては、イベントの開催後全ての予約枠が埋まり追加枠を設けるほど、学生の関心を多く集めました。

LARECEは2025年度も引き続き、各学科・専攻の学生に対し「英語で学ぶ」ための支援を行います。英語を駆使して国内外で活躍する本学卒業生をモデルとしながら、留学準備や各種試験に向けての学習サポートにもより一層力を入れていく予定です。

※1 LARECE Learning Commons (LLC) …LARECEの3つの柱である「CLILプロジェクト」や「英語なんでも相談」、講演会などを行う他、学生が英語を使うための専用スペースとして設置され、安心して英語を習得できる本学ならではの英語コミュニティとして活用されています。

※2 CLILプロジェクト…本学の教員がファシリテーターとなり、各回で異なるトピックについて英語で学ぶ、定員15名のアクティブ・ラーニング形式プログラムです。全10回開催予定。トピックについて学びながら英語力の向上も目指す、複合的な力の獲得に焦点を当てた学習を提供しています。

謹弔



哀悼の意を捧げます。

岡村 清子 先生

2025年3月20日ご逝去 74歳

2005年4月文理学部社会学科教授

2018年3月定年退職

女性学研究所長を務められ、本学の教育に大きく貢献された。

2024年度エクセレント・ファカルティの決定

教育職員業績評価制度の一環として特に優れた業績をあげた教育職員に与えられる2024年度エクセレント・ファカルティに以下1名が選出され、2025年2月28日(金)に表彰式および受賞者の優れた取り組みについて全教育職員で共有することを目的とした「業績報告会」が開催されました。



心理・コミュニケーション学科 心理学専攻 特任准教授

山口 慶子氏

〈選定理由〉

教育活動においては、演習科目において学生の相互添削、いわゆるピアレビューを導入したり、グループでポスターを作って相互にディスカッションさせる「ポスター見学ツアー」などのアクティブ・ラーニングを取り入れた工夫をはじめ多くの教育上の工夫をされ、専門科目だけでなく全学共通科目においても学生から高い評価を受けました。

研究活動においては、2023年刊行の「エビデンスに基づく臨床査定メソッド」をはじめとして多くの書籍に分担執筆をされ、2023年9月の日本心理学会の「心理療法研究の最前線」など複数の学会でシンポジストを務めるなど若手として活躍され、2022年に共著の研究発表で日本認知療法・認知行動療法学会の学会賞を受賞されました。

社会貢献においては、本学心理臨床センターで相談業務や心理検査のスーパービジョンを継続的に行って地域貢献活動を継続されています。高校への出張講義や新学科の広報動画の制作などの広報業務も積極的に行いました。

これら総合的な貢献を踏まえ、特に、研究および教育での貢献が評価されました。

第8回東京女子大学ビジネス・プランニング・コンテスト(BPC)報告

第8回東京女子大学ビジネス・プランニング・コンテストが実施され、高校生、大学生、社会人から多数の応募がありました。書類審査を経て、2024年11月24日に最終審査会がオンラインにて実施されました。事前提出されたビデオレターおよび当日のプレゼンテーション・質疑応答により審査が行われ、起業部門からは、優秀賞1件、

奨励賞1件が、アイデア部門からは、東女賞1件、優秀賞2件、VERA賞1件、奨励賞1件が選出されました。また、最終審査会では、前回の東女賞を獲得したプランの報告がありました。新事業として展開しているプランもあり、本コンテストからは社会的意義のある成果も生まれつつあります。

第9回東京女子大学ビジネス・プランニング・コンテスト(BPC)募集要項

2025年度は以下の通り実施します。

1. 応募資格

高校生以上の女性で、次の①・②のどちらかに該当する方

- ①新たに起業をする意思のある方、もしくは将来的に今回のアイデアを実行する意思のある方
- ②これから新たな事業展開を予定している方、もしくは事業を開始して間もない方、もしくは事業に着手段階の方

2. スケジュール

- ①募集期間：2025年8月1日(金)～8月29日(金) 17時
- ②書類審査結果通知：2025年9月24日(水)
- ③最終審査会：2025年11月1日(土)

3. 応募部門

- ①起業部門：
事業企画・資金計画が具体化されたプランニング
- ②アイデア部門：
資金計画には至らないが、具体化されたイメージがある斬新なアイデア

4. 表彰

各部門により、表彰状のほか、賞金・記念品を贈呈します。

5. お問い合わせ先

東京女子大学教育研究支援課
twcu-bpc@gr.twcu.ac.jp



応募方法など詳細は東京女子大学公式サイトをご覧ください。
https://www.twcu.ac.jp/main/career/twcu_bpc.html

REPORT

2025年度事業計画および予算の概要

事務局長

安藤 由紀美

2025年度の事業計画および予算を本年3月の理事会で決定し、公表いたしました。詳細は、本学公式サイトでご覧いただけます。

【事業計画の概要】

2025年度は教学改革の第二段階が始動し、「1学部6学科」の新体制となります。専門の学びを軸として、分野横断的な学びを推し進め、企業との連携講座、学外でのフィールドワークなど実践的に学ぶ機会を提供します。現代社会で求められる知識・技能を身に付け、新しい価値を創造する力を培い、未来を築く推進力をもった女性の育成を目指した教育の充実を図ってまいります。また、学生の学びを支える安全で快適なキャンパスを維持していきけるよう、教育環境の整備を行ってまいります。



2025年度
事業計画

【予算の概要】

2025年度は、教学改革推進に向けた取り組みとして、キャンパスの施設・設備の拡充整備、デジタル化の推進、図書館システムの更新などの社会環境の変化に対応する予算を計上しました。



2025年度
予算

事業活動収支予算は、事業活動収入5,422百万円、事業活動支出5,592百万円。当年度収支差額は基本金組入前で△170百万円。538百万円の基本金組入後で708百万円の支出超過の見込みです。これに前年度繰越収支差額を加算した翌年度繰越収支差額は1,139百万円で、その大半は、過年度に受け入れた奨学金寄付金です。

NOTICE

受験生向けイベント情報

オープンキャンパス

7月6日(日)、8月2日(土)・3日(日)、2026年3月21日(土)

各種ガイダンスや模擬授業の他、学生広報スタッフ・教職員との個別相談、キャンパスツアーなどのプログラムを開催。自分に合った学びを見つけることができます。

総合型選抜・学校推薦型選抜説明会

6月21日(土)

総合型選抜(知のかけはし入試)のデモンストレーションを行います。在学生のトークライブや入試ガイダンスなども実施します。

1日東女生(キャンパス体験day)

7月21日(月・祝)、10月13日(月・祝)

在学生と一緒に実際の授業を受けることができます。授業の雰囲気や、どんなことをどのように学んでいるかを体験できます。

高校生のための公開講座

7月26日(土)10:00~11:30(オンライン開催/無料)

「ことばの不思議と美しさ」

【講師】漆原 朗子 教授(人文学科 英語圏文化専攻)

東女サマースクール 2025

8月4日(月)

中高生を対象とした1日限定のワークショップです。課題解決型のアイデア創出に挑戦し、企業で活躍する先輩から仕事内容やキャリアを学べます。参加者には修了証、優秀チームには表彰状を授与します。

受験生コーナー(VERA祭(大学祭)との共催)

11月8日(土)・9日(日)

学生スタッフが、受験生の皆さんの疑問や質問に直接お答えするなんでも相談コーナーです。

一般選抜説明会

12月7日(日)

一般選抜を志望する方向けの説明会です。一般選抜ガイダンスや予備校講師による過去問講座などを実施します。

LINE公式アカウント
(受験生向け)



イベント情報など
最新の情報をお届け

学部入試情報



2026年度入学者
選抜日程など
入試情報についてはこちら

資料請求



大学案内、
過去問題集などの
ご請求はこちら

REPORT

ご支援へのお礼

多数のご寄付をいただき、ありがとうございました。
ご芳名のWEBへの掲載は控えさせていただきます。

NOTICE

新任教員紹介

●教育職員

漆原 朗子
牧野 耕司
蓼沼 宏一
岡田 正幸
一柳 廣孝

人文学科 英語圏文化専攻 教授
国際社会学科 教授
経済経営学科 教授
経済経営学科 准教授
人文学科 日本文学文化専攻
特任教授

石井 紀子
高須 昌子

国際社会学科 特任教授
情報数理科学科 情報数理科学専攻
特任教授

田中 今日子

教育・学修支援センター
特任准教授

杉田 磨理子

英語センター 嘱託講師

Mindog, Emily

英語センター 嘱託講師

Yoshioka, Connie

英語センター 嘱託講師

※2025年4月1日付

Nettelbeck, Hugh

国際英語学科 国際英語専攻
特任講師

※2025年4月4日付

NOTICE

客員教員紹介

●特別客員教授 内田 和成 高原 明生

●客員教授 辻村 清行 マリ クリスティーヌ

●客員准教授 柳亭 左龍

同窓会からのお知らせ

同窓会では、さまざまな講座やイベント、観劇会を主催しています。その収益は、母校への寄付や奨学金に充てられます。会員が納める会費とともに、後輩たちの学びの一助となることを願っています。卒業後は、在学中よりも長いお付き合いになるのが同窓会。在学生とそのご家族にも申し込んでいただける行事をご案内します。ふるってご参加ください！

Tel.03-3395-4448
Fax.03-3395-0084
<https://www.twcu-alumnae.jp/>
E-mail: office@twcu.jp
X(旧Twitter): @vera_twcu
(9:00~17:00開館 日・月曜日、祝日休館)



同窓会
ホームページ

後期キリスト教講座 「『ヨナ書』深読み講座」

講師：遠藤勝信(東京女子大学教授)
日程：10月2日・23日(木) 15:00~16:30 オンライン(Zoom)併用
会費：全2回2,500円、1回1,400円 学生1回500円

クリスマス企画

「手作りリースとアドヴェントカレンダーで迎えるクリスマス」

日程：11月27日(木) 13:30~15:30
会費：3,000円 学生500円 (材料費込み)

「安井てつ先生没後80年記念講演&キャンパスツアー」

講師：棚村恵子(元東京女子大学教授) 対談：小野祥子(元東京女子大学学長)
日程：12月13日(土) 13:00~16:00 予定
会費：3,000円 学生500円
会場：東京女子大学7号館西講堂 他

文楽観劇会

- 日程：12月5日(金) 18:00、12月14日(日) 14:30
会場：東京芸術劇場プレイハウス(文楽鑑賞教室)
- 日程：2026年2月15日(日)、2月17日(火)
会場：KAAT神奈川芸術劇場ホール(一般公演)

※後期キリスト教講座とクリスマス企画は72年館で開催します。



表紙の場所

本館。長く図書館として用いられていましたが、現在は創立90周年記念事業の一環として開設した「新渡戸記念室」があり大学の歴史的資料を展示しているほか、1階は教室としても使用しています。建物の装飾には、キャンパス移転当時の善福寺の野原の様子から発想を得た、松かさやスキを模したモチーフが施されています。

竣工年:1931(昭和6)年
設計:アントニン・レーモンド
■文化庁登録有形文化財
■1992年(平成4)年BELCA賞(ロングライフ・ビルディング部門)受賞

VERA ネーミングの由来

『VERA』はラテン語で「真実」を意味します。本学の本館に刻まれている「QUAECUNQUE SUNT VERA」(すべて真実なこと)は新約聖書「フィリピの信徒への手紙 第4章 8節」の中の聖句の一節で、自由な学問の場としての本学を表しています。広報誌『VERA』により、真理の探究の場である本学の「いま」、学生、教育、研究、卒業生の「いま」を伝えることを使命として、教職員および学生への公募の結果、新たな名称として採用されました。

Web アンケート

『VERA』に関するご意見、
ご要望をお寄せください。
QRコードよりご入力ください。



VERA

第1号/2025年度

Contents

02 SPECIAL FEATURE

カリキュラムを新しくし、1学部6学科の新体制に

将来の可能性を広げる、 分野横断的な学びを強化

現代教養学部学科新設記念対談講演

自分を信じて新たなステージへ

一問い続けることの大切さ

……工藤 萌さん、森本 あんり、橋谷 能理子さん

先ず隗より始めよ……山本 真吾

06 Career

TWCU OG TALK vol.16……秋田 陽香さん

2024年度 就職決定状況／

「Career Talk」に「生成AI」を活用した機能
を搭載／オンラインブースの設置

08 Students

はばたけ東女生!……青江 あかり、内藤 凜々子

STUDENT PRESS Vol.10……私のおすすめ授業

10 Studies

ゼミの小窓 第15回……花田 里欧子

第6回 タイ・ワークキャンプ報告

12 TOPICS

問いプロジェクト動画を制作しました／

「『学びを学ぶ』Learning to Learn ガイダンス」開催／
謹申／

2024年度エクセレント・ファカルティーの決定／

第8回東京女子大学

ビジネス・プランニング・コンテスト (BPC) 報告

／第9回東京女子大学

ビジネス・プランニング・コンテスト (BPC) 募集
要項

14 NEWS

2025年度事業計画および予算の概要

……安藤 由紀美／

受験生向けイベント情報／

ご支援へのお礼／新任教員紹介／客員教員紹介／
同窓会からのお知らせ



2025年6月30日発行

東京女子大学

発行:東京女子大学 編集:広報委員会

〒167-8585 東京都杉並区善福寺2-6-1 TEL:03-5382-6476 (広報課)

公式サイト

